

(仮称) 王寺町まちづくり基本条例のための町民ワークショップ
開催報告

現在作成中の(仮称)王寺町まちづくり基本条例案に、できるだけ多くの住民の声を反映させることを目的とした町民ワークショップを開催しました。

【実施日】 令和元年12月7日(土) 9:30~12:00
【実施場所】 やわらぎ会館 多目的ホール
【参加者】 24名

【概要】

(1) ミニレクチャー「まちづくり基本条例について」

まちづくり基本条例が作られるようになってきた社会的な背景のほか、まちづくり基本条例の特徴としての参画と協働について、他自治体での取組事例を紹介し、基礎的な情報提供を行いました。

(2) ワークショップ「こんな王寺町にしたい！」

住民が描く理想の王寺町の姿を描き出すため、4つのグループに分かれて、以下の4つの視点で王寺町を語りました。

- ① 王寺町のすきなところ、いいところ
- ② 王寺町のいやなところ、何とかしてほしいところ
- ③ こんな王寺町にはなってほしくない
- ④ こんな王寺町にしたい！そのために、必要な仕組みや私にできることは何か？



年齢もバックグラウンドも異なる参加者のみなさんが、お互いの経験や意見に耳を傾け、さまざまな王寺町の姿を描き出しました。意見の概要は、班ごとに発表し全体で共有されました。

【各班の発表】

○1班

- ・意識の高い人の意見だけでなく、住民みんなの意見を吸い上げるような仕組みがあれば、もっと住みよいまちになっていくはず。
- ・駅前の西友は無くなって欲しくない。
- ・通いやすいところ・通学しやすいところに学校があったらいいのに。
- ・若者が住むようなまちじゃないと高齢化が進んでいき、税収が減ってしまう。

○2 班

- ・大きなテーマとして「つながる町」になれば。
- ・外国の方も安心して入ってこられて、つながっていける町になるといい。
- ・防災・防犯の観点からも、まずは近所の方とつながることが大切。自治会の加入率が低いという課題もあるが、お互い助け合い守りあえる町にしたい。
- ・昔は大和川でもたくさん遊べたが、今ではそういうこともできなくなっている。住民と自然とがつながれる工夫もあったほうがいいのか。
- ・行政や学校、住民や民間組織、企業経営者がつながる仕組みを意図的に作っていく必要があるのでは。例えば行政の中にコーディネーターチームを設けて、学校と住民をつなぐことに尽力するなど。

○3 班

- ・王寺町には協働するような基盤がすでにあるのではないか？
- ・災害や水害・土砂崩れなどが起きた場合、共助の仕組みをどうやってつくっていくのか。
行政・民間が個々にできることをやりながらも、お互いに協力し合えるような協働の精神を養っていききたい。
- ・子どもたちは増えているようだが、表で赤ん坊の泣き声を聞くことが少ない。子どもたちが自由に遊べたり、お年寄りにやさしいまちづくりをしたい。
- ・お年寄りや地域の人が持っている知識をコミュニティのみなさんに伝えていけるような場があるといい。(例：雪丸サポートスクール)
- ・小さい企業や大学を積極的に誘致して、税収を上げていくことも考えたい。
- ・最近大和川が氾濫しそうになった時に、避難所の一つで最初に到着した若者たちが避難所設営を率先して行っていた。理想的な形が地盤としてあるので、これを失わないようにまちづくりを進めていきたい。
- ・今回のようにまちづくりについて定期的に話し合える場を、つくっていききたい。



○4 班

- ・今王寺町に住んでいる人が住み続けやすいまちになってほしい。
- ・外部の人が引っ越ししてきてでも住みたくなるような、まちでありたい。
- ・観光客が訪れたいくなるようなまちづくりも大切ではないか。
- ・(クリーンキャンペーン、みどりのおじさんなど) 住民が自主的に行ってきた活動を、世代が変わっても続けられるような人間関係づくりをおこなう。
- ・今やっているイベントを引き続き実施する。
- ・子どもを社会みんなで育てていく、そんな町にしたい。

【参加者のアンケートより抜粋】

- ・自分が感じている王寺町の長所・短所だけでなく、王寺に住んでいる人、行政の意見を聞くことで、王寺は良い町だともっと考えられるようになりました。
- ・住民の意見を多く聞き、急ぐことなく、これからに相応しいまちづくりを出来る条例を望みます。
- ・王寺町に引越しされた方と今まで住んでいる人との話し合いができ、王寺町を再度見つめることができました。住みよい王寺町を作るために、話し合いの場をよろしくお願いします。
- ・ファシリテーターは、町の職員さんや住民有志がするほうが熱量や本気度が伝わると思う。
- ・普段であれば、関わることもないような方々と意見を交わすことができて楽しかったです。でも、もっと若い人々の声も反映できるような企画も必要だと思います。



以上